

【安藤昌益研究の最前線（その10）】

安藤昌益の真営道医学を伝承した江戸の町医・
川村真斎による処方収集書『真斎聚方』の処方群
「〔11〕～〔27〕」（その「出典書目」一覧を含む）
および「名家方選之部〔G〕～〔Q〕」における
処方群の「出典」の考証と考察——【Ⅱ】『真斎聚方』
〔No.68～115〕
——真斎の「筆写・抄出方法」から『真斎謾筆』と
稿本『自然真営道』との内容的同一性について
考える

和田耕作

（KOSAKU WADA）

▼『観聚方要補』（多紀元簡著、文政二年〔1819〕版）

- ・『近世漢方医学書集成』（45～47）に収録。
- ・安政四年〔1857〕版あり。「原典から直接厳密に引用し、出典を明記する。」「処方集としての完成度において、今日これを越えるものはない。」（小曾戸洋『日本漢方典籍辞典』）

安政四年〔1857〕版は、「『観聚方要補』安政版」として影印版が刊行されている（同刊行委員会編、医聖社、平成25年）。

▼『雑病広要』（多紀元堅著、安政三年〔1856〕）

- ・『近世漢方医学書集成』（48～52）に収録。
- ・「資料に用いられた医書は316種に及び、・・・出典を明示し、引用は正確で・・・江戸医学館の高い水準を示している。」（小曾戸洋、同前）

- ・『真斎聚方』における川村真斎の方法は、上記江戸医学館の多紀氏と同様に原典から直接引用し、出典を明記する方法と酷似している。〔和田〕

『真斎聚方』	文政版『観聚方要補』	『雑病広要』
〔真斎、1852没〕	〔1819刊〕	〔1856刊〕

〔Ⅰ〕・初出（「PHN」34号参照）・

01～03

- | | | |
|------------------|---|---|
| ・『名家方選』〔1781刊〕 | × | × |
| ・『続名家方選』〔1805刊〕 | × | × |
| ・『名家方選三編』〔1807刊〕 | × | × |

〔Ⅰ〕・初出（「PHN」34号参照）・

01~10

・「千金要方」	○	○
・「瑞竹堂經驗方」	○	○
・「普濟本事方」	○	○
・「嚴氏濟生方」	○	○
・「和劑局方」	○	○
・「万病回春」	○	○
・「証治準繩」	○	○
・「金匱要略」	○	○
・「寿世保元」	○	○
・「外台秘要」	○	○

.....

11~20

・「是齋百一選方」	○	○
・「濟生全書」	○	○
・「聖濟總錄」	○	○
・「外科正宗」	○	○
・「蘭室秘藏」	○	○
・「三因方」	○	○
・「衛生寶鑑」	○	○
・「直指方」	○	○
・「痧脹玉衡書」	○	×
・「救偏癰言」	×	×

.....

21~30

・「薛立齋十六種」〔薛己〕	△	△
・「脾胃論」	○	○
・「活人事証方」	×	○
・「医学入門」	○	○
・「婦人大全良方」	○	○
・「魏氏家藏方」	○	○
・「楊氏家藏方」	○	○
・「弁惑論」	○	○
・「古今医鑑」	○	○
・「溫疫論」	○	×

.....

31～40

・「古今秘苑」	×	×
・「医学正伝」	○	○
・「太平聖恵方」	○	○
・「赤水玄珠」	○	○
・「幼幼新書」	○	○
・「本草綱目」	○	○
・「古今医統」	○	○
・「先醒斎医学広筆記」	○	○
・「宣明論」	○	○
・「続易簡方」	○	○

41～45

・「傷寒六書」	○	×
・「保赤全書」	×	×
・「傷寒緒論」〔『張氏医通』に収載〕	○	○
・「張氏医通」	○	○
・「銀海精微」	×	×
・・・・・・・・・・・・・・・・		

◎・はじめに・◎

安藤昌益の真営道医学を継承した川村真斎（1785～1852）による処方収集書『真斎聚方』（内藤記念くすり博物館蔵本）は、浩瀚な著作である。

本稿では、本誌「PHN」34号に引き続いて、『真斎聚方』のNo.68

以降の処方群（No.68～No.115）と、それらに関連すると思われる『名家方選』三部作の処方群（No.69～No.115）について、できる限り「出典」の考証を行い、考究してみよう。

しかし、『真斎聚方』の膨大な処方群の「出典」の考証は、とうてい一人で短期間にできるようなものではない。以下においては、無理をしない範囲での考証にとどめることをお断りしておきたい。

むしろ、私は、『真斎聚方』における「出典書目」だけでも通覧しておくことは、今後真斎の方法と稿本『自然真営道』との関連性について考察する場合において、その意義と価値があると考え、この作業の続行を決意した次第である。

なお、本誌「PHN」33号、34号において考証した処方群を含む（No.37～No.115）の「出典書目」一覧（「第2稿」）をも収載して、なるべく『真斎聚方』の処方群の全体像を通覧できるように配慮した。

今回は、その第2回目〔Ⅱ.一〔11〕～〕であり、今後も続稿を予定している。

●【出典】の確認のための文献一覧、その他●

- ・「出典」が明示されている中国古典医学書の類は、おもに和田文庫本の中文医学書などを使用し、できる限りその「原文」を参照して考証を行った。しかし、真斎は、主に和刻本を参照しているものと思われるので、底本による多少の誤差は覚悟のうえである。
- ・その他、京都大学・富士川文庫、早稲田大学・古典籍総合データベースなどのWeb公開資料などによった。
- ・『重訂古今方彙』（古賀通元編著、文化五年〔1808〕版）〔和田文庫蔵本による〕

「『重訂』本は、引用書目として六十三種の中国医書を示し、全一八〇〇方を収録する。・・・『万病回春』を出典とする処方が最も多く、・・・一般医家の愛用する第一の処方集となり、・・・常用処方集として、今日にも強い影響を及ぼしている。」（小曾戸洋『日本漢方典籍辞典』）」
- ・『名家方選』

（山田元倫〔浅井南臯〕維亨撰、中山泰成元吉校、天明元年刊〔一七八一〕、『皇漢医学叢書、第十二冊』〔和田文庫蔵本〕所収による）

浅井南臯（山田元倫、1760～1826）には、他に『名家灸選』（文化二刊〔一八〇五〕）、『微瘡約言』（享和二年刊〔一八〇二〕）、『養生録』（文化十四年刊〔一八一七〕）などの著書がある。
- ・『続名家方選』

（村上等順〔名は図基〕編著、文化二年刊〔一八〇五〕、『皇漢医学叢書、第十二冊』〔和田文庫蔵本〕所収による。なお、一部分については、『皇漢医学叢書、第十二冊』に誤植などがあるため、京都大学・富士川文庫本を参照した。）
- ・『名家方選三編』

（平井主善庸信撰、浅井子顯惟良校、文化四年刊〔一八〇七〕、京都大学図書館・富士川文庫蔵本による）

平井庸信には、他に『続名家灸選』（文化四年刊〔一八〇七〕）、『名家灸選三編』（文化十年刊〔一八一三〕）がある。浅井南臯の『名家灸選』とともに、『名家灸選』の三部作は、「のちの灸治療に

◎・Ⅱ．－〔11〕・◎

・・・▽《Ⅰ．－〔10〕、「PHN」34号からの続き》▽・・・

▼〔11〕・「No.68～69」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

- ①○ 九味清脾湯（No.68）（九味）・・・「済生」〔嚴氏済生方〕
・『嚴氏済生方』（巻一）【諸瘡論治】の項からの記載である。
原文の処方名は、「清脾湯」である。
- ②○ 蜀漆散（No.68）（三味）・・・「金匱」〔金匱要略〕
・『金匱要略』（巻上）「瘧病脈・・・第四」からの記載である。
・末尾の小文字部分も原文のものである。
- ③○ 七味清脾湯（No.68）（七味）・・・「三因」〔三因方〕
・『三因方』（巻六）【瘧病不内外因証治】の項からの記載である。
原文の処方名は、「清脾湯」である。主治文は、真斎による要約文と思われる。
- ④○ 古今秘苑 第二方（No.68）（九味）・・・◎〔古今秘苑〕
・『古今秘苑』の中の「古今良方」（巻十）【瘧疾】「治瘧三方」の内の「第二方」からの記載である。
・『古今秘苑』の中の前半が「古今秘苑」（全三十二巻）で、この部分は実は医学書ではない。後半が「古今良方」（全三十二巻）で処方集となっている。
- ⑤○ 知母鼈甲湯（No.69）（六味）・・・「外台」〔外台秘要〕
・『外台秘要』（巻五）【溫瘧方】からの記載である。
- ⑥○ 加味香薷飲（No.69）（五味）・・・「済生」
・『嚴氏済生方』（巻一）【諸瘡論治】の項からの記載である。
- ⑦○ 七宝飲（No.69）（七味）・・・◎「正伝」〔医学正伝〕
・『医学正伝』（巻六）【瘧証】の項からの記載である。
原文の処方名は、「截瘧七宝飲」である。主治文は、真斎による要約文と思われる。
・末尾の「本方・・・」の文は、真斎のものと思われる。
- ⑧○ 常山飲（No.69）（七味）・・・「聖済」〔聖済総録〕
・『聖済総録』「瘧病門」【瘧瘧】の項からの記載である。

●・【考察1】・●

④の『古今秘苑』は、『観聚方要補』（文政版）や『雑病広要』においても引用されておらず、真斎の博搜の広さには驚きである。筆者もようやくして『古今秘苑』の中文書を入手することができた。

◎・Ⅱ．－〔G〕・・・・・・「外因病」【瘡】【瘡疾】・◎

・・・▽《Ⅰ．－〔F〕、「PHN」34号からの続き》▽・・・

◇・「名家方選之部〔G〕」・・・・・・（No.69～70）・◇

▼ 『真斎聚方』「名家方選之部〔G〕」の処方群（No.69～70）

における『名家方選』三部作〔「外因病」【瘡】など〕

からの処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真斎聚方』「名家方選之部〔G〕」 / 【出典】（『名家方選』
の処方名） / 三部作より）

①○ 截瘡方（No.69）（三味）・・・・・・『名家方選』

「外因病」【瘡】（p.19）

②○ 又方（No.69）（二味）・・・・・・『名家方選』

「外因病」【瘡】（p.19）

③○ 治瘡母方（No.69）（四味）・・・・・・『名家方選』

「外因病」【瘡】（p.19）

④○ 截瘡方（No.69）（三味）・・・・・・『名家方選三編』

「外因病」【瘡疾】（No.49）

⑤○ 又方（No.69）（一味）・・・・・・『名家方選三編』

「外因病」【瘡疾】（No.50）

⑥○ 又方（No.69）（七味）・・・・・・『名家方選三編』

「外因病」【瘡疾】（No.50）

⑦○ 治勞瘡難截者方・・・・・・『続名家方選』

「外因病」【瘡】（p.80）

⑧○ 吐瘡妙方（No.69）（一味）・・・・・・『続名家方選』

「外因病」【瘡】（p.80）

⑨○ 截瘡奇方（No.69）（五味）・・・・・・『続名家方選』

「外因病」【瘡】(p.80)

⑩○ 截瘡一方 (No.70) (二味) 『続名家方選』

「外因病」【瘡】(p.81)

⑪○ 截瘡丸 平穩之截方 (No.70) (二味) . . . 『続名家方選』

「外因病」【瘡】(p.81)

・「図基按・」の按文は、編著者・村上等順によるもの。

⑫○ 治久瘡諸藥不効方 (No.70) (一味) 『続名家方選』

「外因病」【瘡】(p.81)

●・【考察2】・●

『名家方選』三部作における「外因病」【瘡】などの項目のすべての処方を記載していることがわかる。

◎・Ⅱ・－〔12〕・◎

▼〔12〕・「No.70～72」の処方群とその「出典」の考証、

および「出典書目」通覧

①○ 犀角旋復花湯 (No.70) (七味) 「千金」〔千金要方〕

・「予此方加檳榔」[榔]と、真齋の文がある。

②○ 大犀角湯 (No.70) (十四味) 「外台」〔外台秘要〕

・『外台秘要』(巻十八)【脚氣衝心煩悶方】の項からの記載である。

③○ 唐待中 療苦脚氣攻心 (No.70) (六味) . . 「外台」

・『外台秘要』(巻十九)【脚氣腫滿方】の項からの記載である。

④○ 牽牛子湯 (No.70) (五味) 「聖濟」〔「聖濟総録」〕

⑤○ 崔氏 療脚氣遍身腫方 (No.71) (四味) 「外台」

・『外台秘要』(巻十九)【脚氣腫滿方】の項からの記載である。

⑥○ 薏苡仁散 (No.71) (七味) ◎「聖恵」〔太平聖恵方〕

⑦○ 蘇恭防已湯 (No.71) (十味) 「外台」

・『外台秘要』(巻十九)【脚氣腫滿小便澀方】の項からの記載である。

⑧○ 延年 茯苓飲 (No.71) (九味) 「外台」

⑨○ 思仙続断円 (No.71) (九味) 「本事」〔普濟本事方〕

⑩○ 犀角麻黄湯 (No.71) (十五味) 「千金」

⑪○ 療脚氣満小便少者方 (No.71) (三味) 「▲」

⑫○ 檳榔湯 (No.71) (六味) 「濟生」〔敝氏濟生方〕

・『敵氏濟生方』（卷一）【脚氣論治】の項からの記載である。

原文では、「七味」である。

・「名檳蘇散」と、真斎によると思われる文がある。

⑬○ 蘇子降氣湯（No.72）（十味）・・・・・・「局方」〔和剤局方〕

・主治文は、『和剤局方』（卷三）【治一切氣】の項からの記載である。『和剤局方』では「八味」である。

○ 〔同上〕（十味）・・・・・・「回春」〔万病回春〕

・『万病回春』（卷二）【喘急】の項からの記載である。

○ 〔同上〕「千金方名 紫蘇子湯」・・・・・・「千金」

⑭○ 紫蘇湯（No.72）（五味）・・・・・・「外台」

・『外台秘要』（卷十九）【脚氣腫滿小便澁方】の項からの記載である。

⑮○ 牛膝湯（No.72）（十二味）・・・・・・「外台」

・『外台秘要』（卷十六）【筋虚極方】の項からの記載である。

◎・Ⅱ．一〔H〕・・・・・・「下部病」【脚氣】・◎

◇・「名家方選之部〔H〕」・・・・・・（No.72～73）・◇

▼ 『真斎聚方』「名家方選之部〔H〕」の処方群（No.72～73）

における『名家方選』三部作〔「下部病」【脚氣】〕から

の処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真斎聚方』「名家方選之部〔H〕」／【出典】（『名家方選』
の処方名）／三部作より）

①○ 七味檳榔湯（No.72）（七味）・・・・・・『名家方選』

「下部病」【脚氣】（p.12）

②○ 治脚氣脚弱冲〔衝〕心（No.72）（五味）・・『名家方選三編』

「下部病」【脚氣】（No.37）

・小文字部分も原文のもの。

③○ 烏頭湯（No.72）（六味）・・・・・・『名家方選』

「下部病」【脚氣】（p.12）

④○ 黑豆湯（No.72）（三味）・・・・・・『名家方選』

「下部病」【脚氣】（p.12）

⑤○ 沈香湯（No.72）（七味）・・・・・・『名家方選』

「下部病」【脚氣】(p.12)

⑥○ 逆衝飲 (No.73) (三味) 『名家方選』

「下部病」【脚氣】(p.13)

⑦○ 如神丸 (No.73) (四味) 『名家方選』

「下部病」【脚氣】(p.13)

⑧○ 洗脚氣急者方 (No.73) (三味) 『名家方選』

「下部病」【脚氣】(p.13)

⑨○ 松葉酒 (No.73) (三味) 『名家方選』

「下部病」【脚氣】(p.13)

●・【考察3】・●

『名家方選』三部作の【脚氣】の項のすべての処方が、原文どおりに記載されている。『続名家方選』には、【脚氣】の項目はない。

◎・Ⅱ．－〔13〕・◎

▼〔13〕・「No.73～75」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

①○ 実脾飲 (No.73) (十二味) 「回春」〔万病回春〕

・『万病回春』(巻三)【水腫】の項の「実脾飲」と【鼓腸】
の項の「分消湯」の二処方を合体して記載している。

②○ 沈香降気湯 (No.73) (四味) 「局方」〔和剂局方〕

・『和剂局方』(巻三)の【治一切気】の項からの記載である。

③○ 五霊湯 (No.73) (五味) 「聖濟」〔聖濟総録〕

④○ 紫蘇煮散 (No.73) (四味) 「聖濟」

⑤○ 壮原湯 (No.74) (九味) ◎「赤水」〔赤水玄珠〕

⑥○ 本事方 実脾散 (No.74) (六味) 「本事」〔普濟本事方〕

・『普濟本事方』(巻四)【腫満水気壅脹】の項からの記載である。

○ 一方 (No.74) (十味) 「▲」

⑦○ 五皮散 (No.74) (五味) 「百一」〔是齋百一選方〕

⑧○ 范汪 木〔朮〕防已湯 (No.74) (八味) 「外台」〔外台秘要〕

・『外台秘要』(巻二十)【水気方】の項からの記載である。

・末尾の「金匱・・・」の文は、真齋のものである。

⑨○ 外台 麻黄湯 (No.74) (五味) 「外台」

・『外台秘要』(巻二十)【風水方】の項からの記載である。

- ⑩〇 療患氣兼水身面・・先服湯方 (No.74) (六味) ・・・「外台」
 ・『外台秘要』(卷二十)【氣兼水身面腫方】の項からの記載である。
 ・原文では「六味」あるが、ここでは「茯苓」の一味がかけている。これに対しての真斎の按文「按六味之一味闕予加商〔商陸〕四兩」がある。
- ⑪〇 療水病方 (No.75) (二味) ・・・・・「外台」
 ・『外台秘要』(卷二十)【水病方】の項からの記載である。
- ⑫〇 療水病身腫方 (No.75) (一味) ・・・・・「外台」
 ・『外台秘要』(卷二十)【水病方】の項からの記載である。
- ⑬〇 聖濟 人參湯 (No.75) (九味) ・・・・・「聖濟」
- ⑭〇 桑白皮湯 (No.75) (五味) ・・・・・「聖濟」
- ⑮〇 塌氣散 (No.75) (七味) ・・・・・◎「幼々新書」〔幼幼新書〕
- ⑯〇 又 四方塌氣散 (No.75) (四味) ・・・「▲」〔幼幼新書?〕
- ⑰〇 疎鑿飲子 (No.75) (十味) ・・・・「濟生」〔嚴氏濟生方〕
 ・『嚴氏濟生方』(卷五)【水腫論治】の項からの記載である。
- ⑱〇 赤小豆湯 (No.75) (四味) ・・・「本草(赤小豆・附方)」

◎【『本草綱目』】

- ・『本草綱目』(卷二十四)「赤小豆・附方」からの記載である。
- ⑲〇 柴胡厚朴湯 (No.75) (七味) ・・・・・「外台」
 ・『外台秘要』(卷七)【心腹脹滿及鼓脹方】の項からの記載である。
- ⑳〇 蒲灰散 (No.75) (二味) ・・・・・「金匱」〔金匱要略〕
 ・『金匱要略』(卷中)「消渴小便・治第十三」からの記載である。
- ㉑〇 桑皮散 (No.75) (十味) ・・・・・「入門」〔医学入門〕
 ・『医学入門』(卷七)【婦人用葯賦】の項からの記載である。

◎・Ⅱ．一〔Ⅰ〕・・・・・「水飲病」【水腫】【鼓脹】・◎

◇・「名家方選之部〔Ⅰ〕」・・・・・(No.76~77)・◇

▼『真斎聚方』「名家方選之部〔Ⅰ〕」の処方群 (No.76~77)

における『名家方選』三部作〔「水飲病」【水腫】【鼓脹】〕
 からの処方群について——その「出典」の考証と考察

- ①○ 禹水湯 又日敦阜剂 (No.76) (七味)『名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.22)
- ②○ 赤小豆湯 (No.76) (五味)『名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.22)
- ③○ 琥珀湯 (No.76) (五味)『名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.23)
- ④○ 白朮膏 (No.76) (五味)『名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.23)
- ⑤○ 治水腫 (No.76) (四味)『名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.23)
- ・ 原文には、「治水腫神方」とある。その他は原文どおりである。
- ⑥○ 又方 (No.76) (四味)『名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.23)
- ⑦○ 禹功丸 (No.76) (三味)『続名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.85)
- ⑧○ 桃花水方 (No.76) (四味)『続名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.85)
- ⑨○ 療水腫鼓脹方 (No.76) (四味)『続名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.85)
- ⑩○ 療産後水気方 (No.76) (四味)『続名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.86)
- ⑪○ 療産後水腫方 (No.76)『続名家方選』
「水飲病」【水腫】 (p.86)
- ⑫○ 消黄丸 (No.76) (六味)『名家方選三編』
「水飲病」【水腫】 (No.58)
- ⑬○ 八味敦阜剂 (No.76) (八味)『名家方選三編』
「水飲病」【水腫】 (No.58)
- ⑭○ 治一切水腫方 (No.77) (十二味)『名家方選三編』
「水飲病」【水腫】 (No.59)
- ⑮○ 又方 (No.77) (九味)『名家方選三編』

「水飲病」【水腫】(No.59)

⑩〇 水腫利水 (No.77) (三味)『名家方選三編』

「水飲病」【水腫】(No.59)

・原文では、「水腫利水方」である。その他は原文どおりである。

⑪〇 又方 (No.77) (一味)『名家方選三編』

「水飲病」【水腫】(No.59)

⑫〇 又方 (No.77) (一味)『名家方選三編』

「水飲病」【水腫】(No.60)

⑬〇 赤小豆煎 (No.77) (五味)『名家方選三編』

「水飲病」【水腫】(No.60)

⑭〇 試験赤小豆湯 (No.77) (八味)『名家方選三編』

「水飲病」【水腫】(No.60)

⑮〇 治鼓脹方 (No.77) (一味)『名家方選三編』

「水飲病」【鼓脹】(No.61)

⑯〇 又方 (No.77) (三味)『名家方選三編』

「水飲病」【鼓脹】(No.61)

●・【考察4】・●

上記において指摘した以外は、『名家方選』三部作の【水腫】【鼓脹】の項のすべての処方が、原文どおりに記載されている。

◎・Ⅱ．－〔14〕・◎

▼〔14〕・「No.78～79」の処方群とその「出典」の考証、

および「出典書目」通覧

①〇 千金当帰湯 (No.78) (十味)「外台」〔外台秘要〕

・『外台秘要』(巻八)【留飲宿食方】の項からの記載である。

②〇 〔療〕胸中痰飲腹中水鳴食不消嘔吐水湯〔方〕 (No.78) (七味) . . .

.「外台」

・『外台秘要』(巻八)【痰飲食不消・方】の項からの記載である。

③〇 赤茯苓湯 (No.78) (九味)「▲」

④〇 療痰飲飲食不消乾嘔湯〔方〕 (No.78) (十三味) . . 「外台」

・『外台秘要』(巻八)【痰飲食不消・方】の項からの記載で

ある。

⑤○ 清湿化痰湯 (No.78) (九味) ・ ・ ・ ・ ・ 「寿世」 [寿世保元]

- ・『寿世保元』 (巻三) 【痰飲】の項からの記載である。
- ・「一方有白芥」との、真斎の注があるが、原文には、「黄芩」の代わりに、「白芥子」がある。この処方は、『万病回春』にもあり、やはり「白芥子」がある。

⑥○ 黒錫丹 (No.79) (十二味) ・ ・ ・ ・ ・ 「局方」 [和剤局方]

- ・『和剤局方』 (巻五) 【治痼冷】の項からの記載である。
- ・長い主治文と服薬文もすべて原文どおりの記載である。
ここでは、薬物名がフルネーム表記になっているのは、三文字の薬物名が多いためであろう。
- ・末尾にある「本事方・ ・ ・」「三因方・ ・ ・」「楊氏方・ ・ ・」の文は、真斎のものである。『楊氏家蔵方』の【痼冷】の項に「黒錫丹」がある。

- ・さらに最末尾に「△黒錫ハ鉛也。誤テ白錫ヲ用ユベカラズ。

白錫ハ大毒ニシテ、礬石ト同、因テ之レヲ記ス。」と真斎の文があるが、ここには真斎の毒物への丁寧な配慮が感じられる。「礬石」とは、砒素を含んだ毒性のある石のこと。

- ・ちなみに、「黒錫丹」は、『観聚方要補』 (巻一) 【中風】の項にも記載されているが、主治文は一行半と短い。しかし、服薬文は真斎と同じく全文を記載している。

●・【考察5】・●

「黒錫丹」への注意文には、町医・真斎の人柄が感じられる。

◎・Ⅱ．－ [15] ・◎

▼ [15] ・「No.80～82」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

①○ 安中散 (No.80) (七味) ・ ・ ・ ・ ・ 「局方」 [和剤局方]

- ・『和剤局方』 (巻三) 【治一切氣】の項からの記載である。
- ・末尾の「予 加茯苓・ ・ ・」の文は、真斎によるもの。

②○ 大半夏湯 (No.80) (九味) ・ ・ ・ ・ ・ 「外台」 [外台秘要]

- ・『外台秘要』 (巻八) 【胃反方】の項からの記載である。

③○ 半夏飲 (No.80) (五味) ・ ・ ・ ・ ・ 「聖濟」 [聖濟総録]

④○ 外台 大瀉方 (No.80) (八味) ・ ・ ・ ・ ・ 「外台」

- ・『外台秘要』（巻八）【胃反方】の項からの記載である。
 - ・主治文「療胃反」が欠落している。
- ⑤○ 通気噎湯方（No.80）（四味）・・・・・・「外台」
- ・『外台秘要』（巻八）【氣噎方】の項からの記載である。
 - ・原文にも主治文はない。なぜなら、その前の処方に「療氣噎」とあるからである。
- ⑥○ 枳宿二陳湯（No.81）（十二味）・・・・「回春」〔万病回春〕
- ・『万病回春』（巻五）【心痛】の項からの記載である。
- ⑦○ 二氣散（No.81）（二味）・・・・・・「楊氏」〔楊氏家藏方〕
- ・『楊氏家藏方』（巻六）【脾胃方】の項からの記載である。
- ⑧○ 当歸養血湯（No.81）（十四味）・・・・・・「回春」
- ・『万病回春』（巻三）【翻胃】の項からの記載である。
 - ・「連」の下に「用呉同炒去呉〔黄〕不用用連」とある小文字部分も原文のもの。
- ⑨○ 古今録驗 羚羊角湯（No.81）（七味）・・・・「外台」
- ・『外台秘要』（巻八）【氣噎方】の項からの記載である。
- ⑩○ 千金 通氣湯（No.81）（四味）・・・・「外台」
- ・『外台秘要』（巻十二）【胸痺噎塞方】の項からの記載である。
- ⑪○ 乾姜湯（半夏湯）（No.81）（十味）・・・・「千金方」
- ・『千金方』（巻十六）【噎塞第六】の項からの記載である。
 - ・出典として「千金方集驗名半夏湯」とある。
- ⑫○ 千金 七氣湯（No.81）（十二味）・・・・「外台」
- ・『外台秘要』（巻十二）【雜療奔豚氣及結氣方】の項からの記載であるが、主治文の前半部分が一致しない。
- ⑬○ 茯苓湯（No.81）（五味）・・・・・・「外台」
- ・『外台秘要』（巻六）【噎錯方】の項からの記載である。
- ⑭○ 茯苓湯（No.81）（五味）・・・・・・「外台」
- ・『外台秘要』（巻六）【噎錯方】の項からの記載である。
- ⑮○ 茯苓湯（No.81）（九味）・・・・・・「外台」
- ・『外台秘要』（巻六）【噎錯方】の項からの記載である。
- ⑯○ 生蘆根五味飲（No.81）（九味）・・・・「外台」
- ・『外台秘要』（巻六）【許仁則療嘔吐方】の項からの記載である。
- ⑰○ 橘皮竹筴湯（No.82）（六味）・・・・「金匱」〔金匱要略〕
- ・『金匱要略』（巻中）【嘔吐噦下痢病・・第十七】からの記載である。

・末尾の「済生方 無棗有枇・・九味、治胃熱多・・不食」の文は、真斎のものである。『嚴氏済生方』（巻七）【脾胃虚実論治】の項に、「橘皮竹筴湯」があり、「枇」は「枇杷葉」のこと。「治胃熱多・・不食」の文は、「橘皮竹筴湯」の主治文である。

⑮〇 千金 療痰飲飲食不消乾嘔湯方 (No.82) (十三味) ・・・

・・・・・「外台」

・『外台秘要』（巻八）【痰飲食不消及嘔逆不下食方】の項からの記載である。

⑯〇 延年 茯苓飲 (No.82) (五味) ・・・・・「外台」

・『外台秘要』（巻八）【風痰方】の項からの記載である。

⑰〇 順気和中湯 (No.82) (十一味) ・・・・・「回春」

・『万病回春』（巻三）【翻胃】の項からの記載である。

⑱〇 古今医統 一方 (名 育気湯) (No.82) (十味) ・・・

・・・・・◎〔古今医統〕

・末尾に「家君曰此症応兼用滾痰丸」と真斎の文がある。

これは、『錦城先生経験方』の「反胃」の項にある「一方古今医統 治反胃・・」の末尾に「兼用滾痰丸不然無効」とあるのを真斎がこのように記載していることが判明した。

真斎が常に父・寿庵（錦城）の臨床治験を受け継いでいる

ことがわかる。なお、「滾痰丸」については、本誌「PHN」

32号を参照されたい。

⑲〇 黄連竹筴湯 (No.82) (十味) ・・・・・「回春」

・『万病回春』（巻三）【嘔吐】の項からの記載である。

●・【考察6】・●

上記に示したように、⑱〇 古今医統 一方 (名 育気湯) のところに「家君・・」とあるのは、注目しておくべきことである。

◎・Ⅱ．一〔J〕・・・「上部病」【隔噎反胃】など・◎

◇・「名家方選之部〔J〕」・・・・・(No.82～83)・◇

▼ 『真斎聚方』「名家方選之部〔J〕」の処方群 (No.82～83)

における『名家方選』三部作〔「上部病」【隔噎反胃】

▼左段▼

▼右段▼

〔『真齋聚方』「名家方選之部〔J〕」 / 【出典】（『名家方選』
の処方名） / 三部作より）

- ①〇 〔一〕大医試効〔云〕（No.82）・・・・・・『続名家方選』
「上部病」【隔〔原文はロヘン、前出および以下同〕噎反胃】（p.64）
- ②〇 治反胃方（No.82）（二味）・・・・・・『続名家方選』
「上部病」【隔噎反胃】（p.64）
- ③〇 治隔噎方（No.82）・・・・・・『続名家方選』
「上部病」【隔噎反胃】（p.65）
- ④〇 又方（No.82）・・・・・・『続名家方選』
「上部病」【隔噎反胃】（p.65）
- ⑤〇 治膈奇方（No.82）（一味）・・・・・・『続名家方選』
「上部病」【隔噎反胃】（p.65）
- ⑥〇 治反胃吐食及膈噎方（No.83）（二味）・・・・『名家方選』
「上部病」【反胃吐食及膈噎】（p.1）
- ⑦〇 治〔膈噎方〕（No.83）（三味）・・・・・・『名家方選』
「上部病」【反胃吐食及膈噎】（p.2）
・「膈噎方」の三文字が欠落している。
- ⑧〇 治同症 蛮方（No.83）（四味）・・・・・・『名家方選』
「上部病」【反胃吐食及膈噎】（p.2）
- ⑨〇 破棺散〔湯〕（No.83）（四味）・・・・『名家方選三編』
「上部病」【翻胃吐食膈噎】（No.20）
・原文は、「破棺湯」である。
- ⑩〇 崖椒丸（No.83）（三味）・・・・・・『名家方選三編』
「上部病」【翻胃吐食膈噎】（No.20）
- ⑪〇 治膈噎諸藥不應者方（No.83）（一味）・・『名家方選三編』
「上部病」【翻胃吐食膈噎】（No.20）
- ⑫〇 縮砂仁湯（No.83）（四味）・・・・・・『名家方選三編』
「上部病」【翻胃吐食膈噎】（No.21）
- ⑬〇 利膈湯（No.83）（三味）・・・・・・『名家方選三編』
「上部病」【翻胃吐食膈噎】（No.21）
- ⑭〇 治痢疾胃氣虛吃逆方（No.83）（三味）・・『名家方選三編』

●・【考察7】・●

上記において指摘した以外は、『名家方選』三部作の【隔噎反胃】

【反胃吐食及膈噎】【翻胃吐食膈噎】の項のすべての処方が、基本的に原文どおりに記載されている。文字の欠落などは転記ミスであろう。

◎・Ⅱ．－〔16〕・◎

▼〔16〕・「No.84～86」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

- ①○ 温中当帰湯 (No.84) (十味)「外台」〔外台秘要〕
・『外台秘要』(巻七)【諸虫心痛方】の項からの記載である。
- ②○ 当帰鶴虱散 (No.84) (八味)「外台」
・『外台秘要』(巻七)【九種心痛方】の項からの記載である。
- ③○ 当帰湯 (No.84) (八味)「▲」〔『外台秘要』〕
・『外台秘要』(巻七)【諸虫心痛方】の項からの記載である。
- ④○ 当帰湯 (No.84) (八味)「外台」
・『外台秘要』(巻七)【心腹痛及脹満痛方】の項からの記載である。
- ⑤○ 当帰湯 (No.84) (六味)「外台」
・『外台秘要』(巻七)【冷氣心痛方】の項からの記載である。
- ⑥○ 当帰湯 (No.85) (十味)「外台」
・『外台秘要』(巻七)【胸脇痛及妨悶方】の項からの記載である。
- ⑦○ 深師 芍薬湯 (No.85) (十味)「外台」
・『外台秘要』(巻十五)【風毒方】の項からの記載である。
- ⑧○ 高良姜湯 (No.85) (九味)「外台」
・『外台秘要』(巻七)【心痛不能飲食方】の項からの記載である。
- ⑨○ 高良姜湯 (No.85) (四味)「千金」〔千金要方〕
- ⑩○ 牡丹五等散 (No.85) (五味)「外台」
・『外台秘要』(巻二十六)【癰卵偏大方】の項からの記載である。
- ⑪○ 解急蜀椒湯 (No.85) (七味)「外台」
・『外台秘要』(巻七)【寒疝心痛方】の項からの記載である。

- ⑫○ 三和散 (No.85) (十一味) 「局方」〔和剂局方〕
・『和剂局方』(卷三)【治一切気】の項からの記載である。
- ⑬○ 大温脾湯 (No.85) (八味) 「外台」
・『外台秘要』(卷十六)【温脾湯・下痢方】の項からの記載である。
- ⑭○ 古今録驗 桂心湯 (No.85) (五味) 「外台」
・『外台秘要』(卷七)【心下・懊痛方】の項からの記載である。
- ⑮○ 小品 当帰湯 (No.86) (十味) 「外台」
・『外台秘要』(卷七)【心腹痛及脹満痛方】の項からの記載である。
- ⑯○ 芎藭湯 (No.86) (八味) 「外台」
・『外台秘要』(卷七)【腹痛方】の項からの記載である。
- ⑰○ 人参丸 (No.86) (九味) 「外台」
・『外台秘要』(卷七)【心腹脹満及鼓脹方】の項からの記載である。
- ⑱○ 烏苓通気散 (No.86) (十三味) 「回春」〔万病回春〕
・『万病回春』(卷五)【癰疽】の項からの記載である。
- ⑲○ 小烏沈湯 (No.86) (三味) 「局方」
・『和剂局方』(卷三)【治一切気】の項からの記載である。
- ⑳○ 檳榔散 (No.86) (八味) 「千金」
- ㉑○ 檳榔湯 (No.86) (七味) 「外台」
・『外台秘要』(卷七)【腹内諸気及脹不下食方】の項からの記載である。
- ㉒○ 厚朴煮散 (No.86) (八味) 「聖濟」〔聖濟総録〕
- ㉓○ 大半夏湯 (No.86) (十二味) 「千金」
- ㉔○ 柴胡勝湿湯 (No.86) (十三味) 「蘭室」〔蘭室秘蔵〕
・『蘭室秘蔵』(卷下)【陽痿陽汗門】の項からの記載である。
正式名を「清魂湯」という。
- ㉕○ 古今録驗 療気忽発満胸急者方 (No.86) (六味) 「外台」

◎・Ⅱ．－〔K〕．．．「下部病」【疝瘕腰腹痛】など・◎

◇・「名家方選之部〔K〕」．．．．．(No.87～88)．◇

▼ 『真齋聚方』 「名家方選之部〔K〕」 の処方群 (No.87～88)

における『名家方選』三部作〔「下部病」【疝瘕腰腹痛】
など〕からの処方群について——その「出典」の考証
と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真齋聚方』 「名家方選之部〔K〕」 / 【出典】 (『名家方選』
の処方名) / 三部作より)

-
- ①○ 臭橙飲 (No.87) (七味) 『続名家方選』
「下部病」【疝瘕腰腹痛】 (p.70)
- ②○ 杜松散 (No.87) (五味) 『続名家方選』
「下部病」【疝瘕腰腹痛】 (p.70)
- ③○ 療疝瘕腰腹疼痛諸藥無効者方 (No.87) (四味)
. . . 『続名家方選』 「下部病」【疝瘕腰腹痛】 (p.70)
- ④○ 治寸白方 (No.87) (八味) 『続名家方選』
「下部病」【疝瘕腰腹痛】 (p.70)
- ⑤○ 治寸白虫方 (No.87) (四味) 『続名家方選』
「下部病」【疝瘕腰腹痛】 (p.70)
- ⑥○ 治疝奇方 (No.87) (六味) 『名家方選三編』
「下部病」【疝瘕】 (No.35)
- ⑦○ 退疝散 (No.87) (四味) 『名家方選三編』
「下部病」【疝瘕】 (No.35)
- ⑧○ 石榴皮湯 (No.87) (六味) 『名家方選三編』
「下部病」【疝瘕】 (No.36)
- ⑨○ 内疝散 (No.87) (十五味) 『名家方選三編』
「下部病」【疝瘕】 (No.36)
- ⑩○ 茴香円 (No.88) (三味) 『名家方選』
「下部病」【疝瘕】 (p.11)
- ⑪○ 治疝氣俄頃腰腹弦急不能揺者方 (No.88) (二味) . . .
. 『名家方選』 「下部病」【疝瘕】 (p.12)
-

●・【考察8】・●

ここには、『名家方選』三部作の「下部病」【疝瘕腰腹痛】【疝瘕】のすべての処方群が、原文どおりに記載されている。

▼〔17〕・「No.88～91」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

- ①○ 大七気湯（No.88）（十味）・・・「準繩」〔証治準繩〕
〔同上〕・・・「済生」〔嚴氏済生方〕
- ②○ 七気消聚散（No.88）（十味）・・・「準繩」
- ③○ 奔豚湯（No.88）（九味）・・・「金匱」〔金匱要略〕
・『金匱要略』「奔豚氣・証治第八」からの記載である。
〔同上〕（八味）・・・「外台」〔外台秘要〕
・『外台秘要』（卷十二）【雜療奔豚氣及結氣方】の項からの記載である。
・末尾に「外台無苟当・・・」と、真斎の文がある。
- ④○ 奔気湯（No.88）（六味）・・・「外台」
・『外台秘要』（卷十二）【雜療奔豚氣及結氣方】の項からの記載である。ただし、主治文が一致しない。
- ⑤○ 枳殼散（No.89）（十二味）・・・「本事」〔普濟本事方〕
・『普濟本事方』（卷三）【積聚凝滯・膈氣】の項からの記載である。
- ⑥○ 一切冷氣槍心切痛・・・（No.89）（二味）・・・「衛生」〔衛生宝鑑〕
- ⑦○ 積年患氣発作有時・・・（No.89）（十味）・・・「千金」〔千金要方〕
- ⑧○ 疎肝散（No.89）（九味）・・・「回春」〔万病回春〕
・『万病回春』（卷五）【脇痛】の項からの記載である。
・原文の処方名は、「疎肝飲」である。
- ⑨○ 分心気飲（No.89）（十二味）・・・「局方」〔和剤局方〕
・『和剤局方』（卷三）【治一切氣】の項からの記載である。
- ⑩○ 正気天香湯（No.89）（五味）・・・「入門」〔医学入門〕
・『医学入門』（卷七）「通用古方詩括」【氣】の項からの記載である。
- ⑪○ 快気湯（No.89）（三味）・・・「局方」
・『和剤局方』（卷三）【治一切氣】の項からの記載である。
- ⑫○ 烏沈湯（No.90）（四味）・・・「局方」
・『和剤局方』（卷三）【治一切氣】の項からの記載である。
- ⑬○ 秘伝降気湯（No.90）（十一味）・・・「局方」
・『和剤局方』（卷三）【治一切氣】の項からの記載である。
- ⑭○ 潰堅湯（No.90）（十味）・・・「回春」

・『万病回春』（巻三）【積聚】の項からの記載である。

⑮○ 定志下気方 (No.90) (十四味) 「千金」

⑯○ 姜椒湯 (No.90) (九味) 「外台」

・『外台秘要』（巻八）【痰飲食不消及・・不下食方】の項からの記載である。

⑰○ 陷胸湯 (No.91) (四味) 「千金」

⑱○ 指迷七氣湯 (No.91) (十味) 「直指」〔直指方〕

⑳○ 枳実大黃湯 (No.91) (五味) 「回春」

・『万病回春』（巻二）【飲食】の項からの記載である。

◎・Ⅱ．－〔18〕・◎

▼〔18〕・「No.91～93」の処方群とその「出典」の考証、

および「出典書目」通覧

①○ 千金翼 破癖方 (No.91) (三味) . . . 「外台」〔外台秘要〕

・『外台秘要』（巻十二）【療癖方】の項からの記載である。

②○ 延年 半夏湯 (No.91) (九味) . . . 「外台」

・『外台秘要』（巻十二）【癖及痙癖不能食方】の項からの記載である。

③○ 〔療〕痰癖心腹痛兼冷方 (No.91) (八味) . . . 「外台」

・『外台秘要』（巻八）【痰癖方】の項からの記載である。

④○ 前胡建中湯 (No.91) (十一味) 「千金」〔千金要方〕

⑤○ 〔療〕腹中疝氣連心以來相引痛緊急方 (No.91) (四味)

. 「外台」

・『外台秘要』（巻十二）【疝氣方】の項からの記載である。

⑥○ 枳殼散 (No.91) (四味) 「本事」〔普濟本事方〕

・『普濟本事方』（巻三）【積聚凝滯五噎膈氣】の項からの記載である。

⑦○ 枳実白朮湯 (No.91) (二味) 「▲」

⑧○ 柴胡湯 (No.92) (五味) 「聖濟」〔聖濟總録〕

⑨○ 療冷氣兩肋脹滿疝氣不能食方 (No.92) (七味) . . 「外台」

・『外台秘要』（巻十二）【癖及痙癖不能食方】の項からの記載である。

・「按此症又外台風痰飲氣逆滿惡心不能食方而桔梗無。予此

等之症兼用沈香降氣湯頗奇驗」との、真齋の按文がある。

- ⑩〇〔療〕 痙癖気壯熱兼咳久為骨蒸驗方 (No.92) (四味) ・ ・ 「外台」
 ・ 『外台秘要』 (卷十三) 【痙気骨蒸方】の項からの記載である。
- ⑪〇 檳榔湯 (No.92) (七味) ・ ・ 「外台」
 ・ 『外台秘要』 (卷七) 【腹内諸気及脹不下食方】の項からの記載である。
- ⑫〇 延年 人參丸 (No.92) (七味) ・ ・ 「外台」
 ・ 『外台秘要』 (卷十二) 【癖及痙癖不能食方】の項からの記載である。
- ⑬〇 〔療〕 冷熱久癖実不能飲食虚漫如水状方 (No.92) (八味)
 ・ ・ ・ ・ ・ 「外台」
 ・ 『外台秘要』 (卷十二) 【久癖方】の項からの記載である。
- ⑭〇 半夏湯 (No.92) (九味) ・ ・ ・ ・ ・ 「千金」
- ⑮〇 延年 療両肋脹急痙満不能食兼頭痛壯熱身体痛方 (八味)
 ・ ・ ・ ・ ・ 「外台」
 ・ 『外台秘要』 (卷十二) 【痙気方】の項からの記載である。
- ⑯〇 治胸膈心腹中痰冷氣心下 ・ ・ (No.92) (十一味) ・ ・ 「千金」
- ⑰〇 千金 半夏湯 (No.92) (九味) ・ ・ ・ ・ ・ 「千金」
- ⑱〇 鉄刷湯 (No.93) (四味) ・ ・ ・ ・ ・ 「局方」〔和剂局方〕
 ・ 『和剂局方』 (卷三) 【治一切気】の項からの記載である。
 服薬文以下の文もすべて原文からの記載である。
- ⑲〇 和方 調中散 (No.93) (十二味) ・ ・ ・ 「和方」

◎・Ⅱ．一〔L〕 ・ ・ ・ 「中部病」 【心腹痛】 など・◎

◇・「名家方選之部〔L〕」 ・ ・ ・ ・ ・ (No.93～96) ・◇

▼ 『真齋聚方』 「名家方選之部〔L〕」 の処方群 (No.93～96)

における『名家方選』三部作〔「中部病」 【心腹痛】 など〕
 からの処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真齋聚方』 「名家方選之部〔L〕」	／	【出典】 (『名家方選』
の処方名〕	／	三部作より)

- ①〇 調中散 (No.93) (五味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』
 「中部病」 【心腹痛】 (p.67)

- ②〇 療虚腹諸薬無効 ・ ・ ・ 腹痛難愈者方 (No.93) (三味) ・ ・

・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』 「中部病」 【心腹痛】 (p.67)

③○ 療心痛方 (No.93) (一味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.67)

④○ 化虫丸 (No.93) (七味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.67)

⑤○ 治心痛徹背 ・ ・ 声不出者方 (No.93) (二味) ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.67)

⑥○ 三靈湯 (No.93) (三味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.68)

・ 真斎は村上図基の長い按文もすべて記載している。ここにも

真斎の方法が明確にあらわれている。

⑦○ 安虫丸 (No.94) (七味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.68)

⑧○ 征虫丸 (No.94) (五味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.68)

⑨○ 青木香丸 (No.94) (四味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.69)

⑩○ 鷄胆丸 (No.94) (四味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.69)

⑪○ 貼積塊方 (No.94) (九味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.69)

⑫○ 寛中湯 (No.94) (三味) ・ ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.69)

⑬○ 瀉脾湯 (No.94) (七味) ・ ・ ・ ・ ・ 『名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.9)

⑭○ 緩中湯 (No.94) (七味) ・ ・ ・ ・ ・ 『名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.9)

・ 山田維亨の按文も全文記載している。

⑮○ 征虫丸 (No.94) (七味) ・ ・ ・ ・ ・ 『名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.9)

⑯○ 黒丸子 古方 (No.94) (五味) ・ ・ ・ ・ ・ 『名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.10)

⑰○ 同 今方 (No.94) (四味) ・ ・ ・ ・ ・ 『名家方選』

「中部病」 【心腹痛】 (p.10)

⑱○ 順気丸 (No.94) (五味) ・ ・ ・ ・ ・ 『名家方選』

「中部病」【心腹痛】(p.10)

⑮○ 桂苓散 (No.95) (六味) 『名家方選』

「中部病」【心腹痛】(p.10)

⑯○ 松脂丸 (No.95) (二味) 『名家方選』

「中部病」【心腹痛】(p.10)

⑰○ 清中飲 (No.95) (二味) 『名家方選』

「中部病」【心腹痛】(p.11)

⑱○ 鼈甲湯 (No.95) (四味) 『名家方選』

「中部病」【心腹痛】(p.11)

⑲○ 治腹痛時・嘔吐方 (No.95) (一味) 『名家方選』

「中部病」【心腹痛】(p.11)

⑳○ 愈痛散 (No.95) (五味) 『名家方選』

「中部病」【心腹痛】(p.11)

㉑○ 安虫快膈湯 (No.95) (九味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.32)

㉒○ 治積年腹痛方 (No.95) (三味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.32)

㉓○ 理中七氣湯 (No.95) (七味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.32)

㉔○ 腹調丸 (No.95) (六味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.32)

㉕○ 治瘀血腹痛方 (No.95) (六味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.33)

㉖○ 瞿麥散 (No.95) (四味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.33)

㉗○ 治久年腹痛藥酒方 (No.95) (二味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.33)

㉘○ 敷藥方 (No.96) (八味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.34)

㉙○ 治打撲閃挫腰痛方 (No.96) (八味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.34)

㉚○ 治腎氣虛風所乘腰痛方 (No.96) (七味) 『名家方選三編』

「中部病」【心腹腰脇痛】(No.34)

◎・Ⅱ．－〔19〕・◎

▼〔19〕・「No.96～100」の処方群とその「出典」の考証、

および「出典書目」通覧

- ①○ 〔療〕偏風膈上風熱經心藏〔臟〕恍惚神情天陰心中昏々
如醉不醒方（No.96）（四味）・・・「外台」〔外台秘要〕
・『外台秘要』（卷十四）【偏風方】からの記載である。
末尾の小文字部分も原文のもの。
- ②○ 釣藤散（No.96）（十一味）・・・「準繩」〔証治準繩〕
- ③○ 川芎散（No.96）（十二味）・・・「準繩」
- ④○ 川芎茶調散（No.96）（八味）・・・「回春」〔万病回春〕
・全文『万病回春』（卷五）【頭痛】の項からの記載である。
- ⑤○ 頭風神方（No.96）（十一味）・・・
・・・◎「広筆記」〔先醒齋医学広筆記〕
・『先醒齋医学広筆記』（卷三）「雑症」【腦漏】の項からの記載
である。主治文がないのも原文どおりである。
・『観聚方要補』（文政版・安政版）にも主治文の記載はない。
- ⑥○ 大三五七湯（No.97）（六味）・・・「千金」〔千金要方〕
- ⑦○ 半夏白朮天麻湯（No.97）（十三味）・・・「回春」
・全文『万病回春』（卷五）【頭痛】の項からの記載である。
- ⑧○ 導痰湯（No.97）（六味）・・・「聖濟」〔聖濟総録〕
・末尾の小文字部分「百一・入門・名寧心導痰湯、皆後世
方名也」は、真斎の文と思われる。
- ⑨○ 防風通聖散（No.97）（十七味）・・・◎「宣明」〔宣明論〕
・『宣明論』（卷二）【風論】からの記載である。ただし、主治
文は、「風論」からの要約のようである。
〔同上〕・・・「準繩」
〔同上〕・・・「正宗」〔外科正宗〕
・『外科正宗』（卷二）「時毒論第二十二」【時毒主治方】の項か
らの記載である。
- ⑩○ 涼膈散（No.97）（七味）・・・「局方」〔和剂局方〕
・『和剂局方』（卷六）【治積熱】の項からの記載である。

- 〔同上〕 「回春」
- ・『万病回春』（巻二）【内傷】の項からの記載である。
 - ・末尾に「一方 有桔〔梗〕 . . .」とあるのは、『万病回春』の
処方をする。これは真斎の文である。
- ⑪○ 当帰飲子 (No.98) (十味) 「済生」〔嚴氏済生方〕
- ・『嚴氏済生方』（巻六）【瘡疥論治】の項からの記載である。
- ⑫○ 苦参丸 (No.98) (十味) 「準繩」
- ⑬○ 普済消毒飲 (No.98) (十四味) 「正宗」
- ・『外科正宗』（巻二）「時毒論第二十二」【時毒主治方】の項か
らの記載である。
- ⑭○ 樺皮散 (No.98) (五味) 「局方」
- ・『和剤局方』（巻八）【治瘡腫傷折】の項からの記載である。
- ⑮○ 消風散 (No.98) (十三味) 「正宗」
- ・『外科正宗』（巻四）「疥瘡論第七十三」からの記載である。
- ⑯○ 清上防風湯 (No.98) (十二味) 「回春」
- ・『万病回春』（巻五）【面病】の項からの記載である。
- ⑰○ 清肺飲子 (No.98) (十味) 「回春」
- ⑱○ 犀角消毒飲 (No.99) (四味) 「局方」
- ・『和剤局方』（巻六）【治積熱】の項からの記載である。
 - 原文の処方名は、「消毒犀角飲」である。
 - ・薬物のところに「力」とあるのは、「大力子」、すなわち「鼠
粘子」のこと。
 - ・末尾に「吳昆医方考曰 此方名犀角無犀、角者謂其功同乎犀
角也」と、真斎の文がある。吳昆『医方考』（1584年）。
- ⑲○ 升麻和氣飲 (No.99) (十四味) 「局方」
- ・『和剤局方』（巻八）【治瘡腫傷折】の項からの記載である。
- ⑳○ 解毒瀉心湯 (No.99) (十二味) 「正宗」
- ・『外科正宗』（巻四）「天泡第八十」からの記載である。
- ㉑○ 聖済 麻黄湯 (No.99) (十三味) 「聖済」
- ㉒○ 〔療〕風疹遍身主之方 (No.99) (十一味) 「外台」
- ・『外台秘要』（巻十五）【癰疹風疹方】からの記載である。
 - ・原文の処方名は、「療風疹遍身方」である。
- ㉓○ 犀角湯 (No.99) (十一味) 「千金」
- ㉔○ 四順清涼飲 (No.99) (八味) 「正宗」
- ・『外科正宗』（巻四）「湯瀝火燒第六十一」からの記載である。
- ㉕○ 白蘚皮湯 (No.99) (八味) 「準繩」

- ②⑥〇 牛房子散 (No.100) (五味) 「本事」〔普濟本事方〕
 ・『普濟本事方』(卷三)【風寒濕痺白虎・諸病】の項からの
 記載である。末尾の「此病・」の文も原文のもの。
- ②⑦〇 化斑解毒湯 (No.100) (九味) 「正宗」
 ・『外科正宗』(卷四)「火丹第七十九」からの記載である。
- ②⑧〇 赤小豆湯 (No.100) (十味) 「済生」
 ・全文が『嚴氏済生方』(卷五)【水腫論治】の項からの記載で
 ある。
- ②⑨〇 黄芩清肺飲 (No.100) (十一味) 「正宗」
 ・『外科正宗』(卷四)「肺風粉刺酒・第八十一」からの記載
 である。

◎・Ⅱ. —〔M〕. . . 「上部病」【頭痛】【頭面】・◎

◇・「名家方選之部〔M〕」. (No.100～101) ・◇

▼ 『真齋聚方』「名家方選之部〔M〕」の処方群 (No.100～101)
 における『名家方選』三部作〔「上部病」【頭痛】【頭面】〕
 からの処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真齋聚方』「名家方選之部〔M〕」 / 【出典】(『名家方選』
 の処方名) / 三部作より)

- ①〇 頭風方 (No.100) (十味) 『名家方選三編』
 「上部病」【頭痛】(No.19)
- ②〇 姜黄湯 (No.100) (七味) 『名家方選』
 「上部病」【頭痛】(p.1)
- ③〇 石亭丸 (No.100) (三味) 『名家方選』
 「上部病」【頭痛】(p.1)
- ④〇 治湿家頭痛方 (No.100) 『名家方選』
 「上部病」【頭痛】(p.1)
- ⑤〇 清上湯 (No.100) (十三味) 『続名家方選』
 「上部病」【頭面】(p.54)

・処方名の下に「頭下〔シ〕ト云」とあるのは、原文のもの。

（「皇漢医学叢書」本では、これが欠落しているため、早稲田大学所蔵の原本を参照した。）

⑥○ 治頭屑方（No.100）（一味）・・・『続名家方選』

「上部病」【頭面】（p.54）

・処方名の左に「フケクスリ」とあるのは、原文のもの。

（「皇漢医学叢書」本では、これが欠落しているため、早稲田大学所蔵の原本を参照した。）

⑦○ 治婦人血風諸頭痛方（No.101）（二味）・・・『続名家方選』

「上部病」【頭面】（p.54）

⑧○ 治平素有頭痛癖者方（No.101）（二味）・・・『続名家方選』

「上部病」【頭面】（p.54）

⑨○ 大陽散（No.101）（四味）・・・『名家方選三編』

「上部病」【頭痛】（No.20）

●・【考察10】・●

ここでも、『名家方選』三部作の「上部病」【頭痛】【頭面】のすべての処方が記載されていることがわかる。なお、「皇漢医学叢書」本には、文字・ルビなどの欠落があるので、その考証には注意が必要である。

◎・Ⅱ．－〔20〕・◎

▼〔20〕・「No.101」の処方群とその「出典」の考証、

および「出典書目」通覧

①○ 通気防風湯（No.101）（七味）・・・「回春」〔万病回春〕

・「弁惑論 名羌活勝湿湯」と、真斎の文がある。

・『万病回春』（巻五）【背痛】の項からの記載である。

②○ 枳殼煮散（No.101）（七味）・・・「本事」〔普濟本事方〕

・『普濟本事方』（巻七）【腹脇疼痛】の項からの記載である。

③○ 流気飲子（No.101）（十六味）・・・「大全良方」〔婦人大全良方〕

・『婦人大全良方』（巻三）「婦人臂痛方論第七」からの記載で

ある。原文では、この主治文は「流気飲子」ではなく、その前の処方「白芥子散」のところにあるものである。なお

「積腹」は、原文では「連皮大腹」である。

④○ 〔療〕腰膝髀連腿脚疼酸者方（No.101）（六味）・・・

・・・「外台」〔外台秘要〕

・『外台秘要』（巻十七）【腰痛方】の項からの記載である。

◎・Ⅱ．－〔21〕・◎

▼〔21〕・「No.102～103」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

- ①○ 温胆湯 (No.102) (六味) ・ ・ ・ ・ ・ 「千金」〔千金要方〕
・ 末尾の「得効方・ ・ ・」の文は、真斎のものと思われる。
- ②○ 紫石寒食散 (No.102) (十三味) ・ ・ ・ ・ 「金匱」〔金匱要略〕
・ 『金匱要略』(巻下)「雜療方第二十三」からの記載である。
- ③○ 十珍散 (No.102) (十味) ・ ・ ・ ・ ◎「続易簡方」〔続易簡方〕
・ 『続易簡方』(巻二)からの記載である。〔京大本による。〕
- ④○ 延年 酸棗飲 (No.102) (八味) ・ ・ ・ ・ 「外台」〔外台秘要〕
・ 『外台秘要』(巻十七)【虚勞虚煩不得眠方】の項からの記載である。
- ⑤○ 正脾散 (No.102) (五味) ・ ・ ・ ・ ・ 「楊氏」〔楊氏家藏方〕
・ 『楊氏家藏方』(巻六)【脾胃方】の項からの記載である。
- ⑥○ 柴葛解肌湯 (No.102) (九味) ・ ・ ・ ◎「六書」〔傷寒六書〕
・ 末尾の小文字部分も含めて『傷寒六書』(巻四)からの記載である。〔京大本による。〕
- ⑦○ 深師 酸棗湯 (No.103) (七味) ・ ・ ・ 「外台」
・ 『外台秘要』(巻二)【傷寒不得眠方】の項からの記載である。
・ 末尾の「金匱 無干姜・ ・ ・」は、真斎の文である。

◎・Ⅱ．－〔22〕・◎

▼〔22〕・「No.103～104」の処方群とその「出典」の考証、
および「出典書目」通覧

- ①○ 利膈湯 (No.103) (七味) ・ ・ ・ ・ ・ 「本事方」〔普濟本事方〕
・ 『普濟本事方』(巻四)【虚熱風壅喉閉清利頭目】の項からの記載である。
- ②○ 清咽利膈湯 (No.103) (十四味) ・ ・ ・ ・ 「正宗」〔外科正宗〕
・ 『外科正宗』(巻二)「咽喉論第二十一」【咽喉主治方】の項からの記載である。
- ③○ 牛房子湯 (No.103) (八味) ・ ・ ・ ・ ・ 「入門」〔医学入門〕

・全文ともに『医学入門』（巻六）「雑病用薬賦」【痰】の項からの記載である。

④○ 連翹散 (No.103) (十一味) 「正宗」

・『外科正宗』（巻二）「咽喉論第二十一」【咽喉主治方】の項からの記載である。

⑤○ 利咽解毒湯 (No.104) (七味) ◎「保赤」〔保赤全書〕

・『保赤全書』（下巻）の「利咽解毒湯」からの記載である。

しかし、主治文は原文とは少しく異なるところがある。たとえば、原文の「疼痛」を、真斎は「咽喉 第六十六」の解説文から「腫痛」という用語を使用している。早大本による。

⑥○ 射干湯 (No.104) (七味) 「外台」〔外台秘要〕

・『外台秘要』（巻二十三）【喉痺方】の項からの記載である。

⑦○ 羚羊角鼓湯 (No.104) (八味) 「外台」

・『外台秘要』（巻二十三）【咽喉腫方】の項からの記載である。

⑧○ 清涼散 (No.104) (十二味) 「回春」〔万病回春〕

・『万病回春』（巻五）【咽喉】の項からの記載である。

⑨○ 犀角玄参湯 (No.104) (七味) ◎「傷寒緒論」

・「傷寒緒論」は、『医通』に収録されている。

・「傷寒緒論」〔『医通』に収録〕（巻下）【雜方】の項の「犀角黒参湯」からの記載である。

⑩○ 氷硼散 (No.104) (四味) 「正宗」

・『外科正宗』（巻二）「咽喉論第二十一」【咽喉主治方】の項からの記載である。

⑪○ 黄耆湯 (No.104) (五味) 「聖濟」〔聖濟総録〕

⑫○ 吹喉散 (No.104) (三味) 「局方」〔和剂局方〕

・『和剂局方』（巻七）【治咽喉口齒】の項からの記載である。

◎・Ⅱ．－〔N〕・・「上部病」【口舌牙齒咽・・】など・◎

◇・「名家方選之部〔N〕」・・・・・・（No.104～106）・◇

▼ 『真斎聚方』「名家方選之部〔N〕」の処方群（No.104～106）

における『名家方選』三部作〔「上部病」【口舌牙齒咽・・】など〕からの処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真斎聚方』「名家方選之部〔N〕」／【出典】（『名家方選』の処方名）／三部作より）

- ①○ 治咽喉痛因結毒者 (No.104) (七味) . . . 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.25)
- ②○ 妙香散 (No.104) (六味) 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.25)
- ③○ 珠明散 (No.105) (四味) 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.25)
- ④○ 椒酒煎 治口舌疼痛及破裂者 (No.105) (一味)
 . . 『名家方選三編』 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.26)
- ⑤○ 治齒痛方 (No.105) (二味) 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.26)
- ⑥○ 又方 (No.105) (二味) 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.26)
- ⑦○ 又方 (No.105) (二味) 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.26)
- ⑧○ 又方 (No.105) (一味) 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.26)
- ⑨○ 治齒痛或腫方 (No.105) (五味) 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.27)
- ⑩○ 薏苡仁湯 (No.105) (四味) 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.27)
- ⑪○ 治舌上瘡方 (No.105) (三味) 『名家方選三編』
 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.27)
- ⑫○ 黛黃散 (No.105) (七味) 『統名家方選』
 「上部病」 【口舌】 (p.59)
- ⑬○ 黛紅散 (No.105) (三味) 『統名家方選』
 「上部病」 【口舌】 (p.60)
- ⑭○ 療口舌破裂腫痛方 (No.105) (一味) . . . 『統名家方選』
 「上部病」 【口舌】 (p.60)
- ⑮○ 治口中一切腫瘍方 (No.105) (七味) . . . 『統名家方選』
 「上部病」 【口舌】 (p.60)
- ⑯○ 療舌疽方 (No.105) (四味) 『統名家方選』
 「上部病」 【口舌】 (p.60)
- ⑰○ 治上焦鬱熱口中及牙齒腫瘍方 (No.105) (三味) . . .
 . . . 『統名家方選』 「上部病」 【口舌】 (p.60)
- ⑱○ 通喉散 (No.105) (散味) 『統名家方選』
 「上部病」 【咽喉】 (p.61)

- ⑱○ 治咽喉腫塞勺飲難通者方 (No.106) (四味) . . .
 . . . 『続名家方選』 「上部病」 【咽喉】 (p.61)
- ⑳○ 療喉痺方 (No.106) 『続名家方選』
 「上部病」 【咽喉】 (p.62)
- ㉑○ 又方 (No.106) (三味) 『続名家方選』
 「上部病」 【咽喉】 (p.62)
- ㉒○ 治骨硬方 (No.106) 『続名家方選』
 「上部病」 【咽喉】 (p.62)
- ㉓○ 又方 (No.106) 『続名家方選』
 「上部病」 【咽喉】 (p.62)
- ㉔○ 治喉風方 (No.106) (四味) 『続名家方選』
 「上部病」 【咽喉】 (p.62)
-

●・【考察11】・●

『名家方選』 【口舌牙齒鼻耳眼】 の項の9処方の記載が欠落しているが、これは非常に珍しいことである。記載漏れであろうか。

さらに、⑪○治舌上瘡方 (No.105) (三味) ・『名家方選三編』 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.27) の次の「治鼻淵方」と「又方」の2処方が欠落している。

このような欠落が生じたのは、『名家方選三編』 「上部病」 【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.25～29) の内容が、Ⅱ－〔N〕、Ⅱ－〔O〕、Ⅱ－〔P〕の三か所に分けて記載されたことが原因であろうと思われる。

◎・Ⅱ．－〔23〕・◎

▼〔23〕・「No.106」の処方群とその「出典」の考証、

および「出典書目」通覧

- ①○ 麗沢通気湯 (No.106) (十三味) . . . ◎「医通」〔張氏医通〕
 ・『張氏医通』 (卷十五) 【鼻門方】 の項からの記載である。
 ・原文には、「黄耆」があり、「十四味」である。
 ・「冬月・・夏月・・」の小文字部分も原文のものである。
- ②○ 鼻中自〔息〕肉不通利方 (No.106) (二味)
 ・「外台」〔外台秘要〕
 ・『外台秘要』 (卷二十二) 【鼻中息肉方】 の項からの記載である。
 ・原文には「療鼻中塞肉不通利方」とある。
 ・「千金方・・」の小文字部分も原文のものである。
-

◎・Ⅱ．－〔24〕・◎

▼〔24〕・「No.107」の処方群とその「出典」の考証、

および「出典書目」通覧

- ①○ 荊芥連翹湯 (No.107) (十三味) ・ ・ ・ ・ 「回春」〔万病回春〕
・ 末尾の小文字部分も含めて『万病回春』(巻五)【耳病】の項
からの記載である。
 - ②○ 蔓荊子散 (No.107) (十一味) ・ ・ ・ ・ 「回春」
『万病回春』(巻五)【耳病】の項からの記載である。
 - ③○ 犀角散 (No.107) (十一味) ・ ・ ・ ・ 「準繩」〔証治準繩〕
 - ④○ 犀角飲子 (No.107) (八味) ・ ・ ・ ・ 「準繩」
 - ⑤○ 精神散 (No.107) (九味) ・ ・ ・ ・ 「準繩」
-

◎・Ⅱ．－〔○〕・・・「上部病」【耳】など・◎

◇・「名家方選之部〔○〕」・・・(No.108)・◇

▼『真齋聚方』「名家方選之部〔○〕」の処方群 (No.108)

における『名家方選』三部作〔「上部病」【耳】など〕

からの処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真齋聚方』「名家方選之部〔○〕」／【出典】(『名家方選』
の処方名)／三部作より)

- ①○ 治大人小兒聾聵方 (No.108) (二味) ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』
「上部病」【耳】(p.54)
- ②○ 治有小兒停耳癖者方 (No.108) ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』
「上部病」【耳】(p.55)
- ③○ 止耳痛方 (No.108) ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』
「上部病」【耳】(p.55)
- ④○ 又方 (No.108) ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』
「上部病」【耳】(p.55)
- ⑤○ 又方 (No.108) ・ ・ ・ ・ 『続名家方選』
「上部病」【耳】(p.55)
- ⑥○ 治耳鳴不聞者方 (No.108) (五味) ・ ・ ・ 『続名家方選』
「上部病」【耳】(p.55)

- ⑦○ 療中年後耳鳴方 (No.108) (六味) 『続名家方選』
「上部病」【耳】 (p.55)
- ⑧○ 治耳聾方 (No.108) (三味) 『名家方選三編』
「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.28)
- ⑨○ 治爛耳痛甚者方 (No.108) 『名家方選三編』
「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.28)
- ⑩○ 聖功停耳方 (No.108) (十味) 『名家方選三編』
「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.28)
- ⑪○ 草麻子丸 (No.108) (七味) 『名家方選』
「上部病」【口舌牙齒鼻耳眼】 (p.6)
- ⑫○ 達啓散 (No.108) (四味) 『名家方選』
「上部病」【口舌牙齒鼻耳眼】 (p.6)
- ⑬○ 九藥方 (No.108) (二味) 『名家方選』
「上部病」【口舌牙齒鼻耳眼】 (p.7)

●・【考察12】・●

最後の⑬○九藥方 (No.108) (二味) ・『名家方選』「上部病」【口舌牙齒鼻耳眼】 (p.7) の次の処方である「治骨槽風方」と「兼用丸藥方」の2処方が欠落している。

◎・Ⅱ. - [25] ・◎

▼ [25] ・「No.109～111」の処方群とその「出典」の
考証、および「出典書目」通覧

- ①○ 補肝散 (No.109) (九味) 「準繩」〔証治準繩〕
- ②○ 柴胡散 (No.109) (八味) 「事証」〔活人事証方〕
- ③○ 黃連洗湯 (No.109) (三味) 「外台」〔外台秘要〕
・『外台秘要』(卷二十一)【眼關令明方】の項からの記載である。
- ④○ 前胡瀉肝除熱〔湯〕 (No.109) (十一味) 「外台」
・『外台秘要』(卷十六)【肝勞虛熱方】の項からの記載である。
- ⑤○ 流氣飲 (No.109) (十六味) 「局方」〔和劑局方〕
・『和劑局方』(卷七)【治眼目疾】の項からの記載である。
- ⑥○ 羚羊角湯 (No.110) (九味) 「聖濟」〔聖濟總録〕
- ⑦○ 羚羊角湯 (No.110) (六味) 「医通」〔張氏医通〕
・『張氏医通』(卷十五)【目門】の項からの記載である。
- ⑧○ 羚羊角散 (No.110) (八味) 「局方」
・『和劑局方』(卷七)【治眼目疾】の項からの記載である。

- ⑨○ 芎黄円 (No.110) (二味) 「楊氏」〔楊氏家藏方〕
 ・『楊氏家藏方』(卷三)【積熱方】の項からの記載である。
 ・末尾の「本事方・」の文は、真斎によるものである。
- ⑩○ 洗肝散 (No.110) (八味)「局方」
 ・『和剂局方』(卷七)【治眼目疾】の項からの記載である。
- ⑪○ 大黃湯 (No.110) (五味)「外台」
 ・『外台秘要』(卷二十一)【眼暴腫痛方】の項からの記載
 である。
- ⑫○ 檳榔湯 (No.110) (九味)「千金」〔千金要方〕
- ⑬○ 滋腎明目湯 (No.110) (十三味) . . .「回春」〔万病回春〕
 ・末尾の小文字部分も含めて『万病回春』(卷五)【眼目】の項
 からの記載である。
- ⑭○ 五瀉湯 (No.110) (十味) . . . ◎「銀海」〔銀海精微〕
 ・『銀海精微』(卷上)【瞳人乾缺】の項からの記載である。
- ⑮○ 瀉肝湯 (No.111) (十一味)「千金」
-

◎・Ⅱ. ー〔P〕 . . . 「上部病」【眼目】など・◎

◇・「名家方選之部〔P〕」 (No.111~113) ・◇

▼『真斎聚方』「名家方選之部〔P〕」の処方群 (No.111~113)

における『名家方選』三部作〔「上部病」【眼目】など〕
 からの処方群について——その「出典」の考証と考察

▼左段▼

▼右段▼

〔『真斎聚方』「名家方選之部〔P〕」 / 【出典】(『名家方選』
 の処方名) / 三部作より)

- ①○ 爐甘石散 (No.111) (五味)『名家方選』
 「上部病」【口舌牙齒鼻耳眼】(p.7)
- ②○ 芩苳湯 (No.111) (七味)『名家方選』
 「上部病」【口舌牙齒鼻耳眼】(p.8)
- ③○ 内障散 (No.111) (五味)『名家方選』
 「上部病」【口舌牙齒鼻耳眼】(p.8)
- ④○ 治塵埃砂石入眼疼痛不可忍者方 (No.111) (二味) . .
『名家方選』「上部病」【口舌牙齒鼻耳眼】(p.8)

- ⑤○ 涼明飲 (No.111) (十三味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.56)
- ⑥○ 養明飲 (No.111) (八味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.56)
- ⑦○ 洗眼方 (No.111) (八味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.57)
- ⑧○ 治常目翳〔翳〕者平素服之佳矣 (No.111) (三味) . . .
. . . 『名家方選三編』「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.28)
- ⑨○ 石斛湯 (No.111) (六味) 『名家方選三編』
. 「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.28)
- ⑩○ 又方 (No.111) (四味) 『名家方選三編』
. 「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.29)
- ⑪○ 治塵埃入眼疼痛者方 (No.112) 『名家方選三編』
. 「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.29)
- ⑫○ 治疳眼奇方 (No.112) (三味) 『名家方選三編』
. 「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】 (No.29)
- ⑬○ 龍腦散 (No.112) (八味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.57)
- ⑭○ 石羔〔膏〕散 (No.112) (四味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.57)
- ⑮○ 焰硝散 (No.112) (三味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.57)
- ⑯○ 蓬砂散 (No.112) (七味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.58)
- ⑰○ 黃連湯 (No.112) (六味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.58)
. 末尾の「以上六方 . . .」の小文字文も原文のもの。
- ⑱○ 治爛弦方 (No.112) (三味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.58)
- ⑲○ 小栢〔柏〕散 (No.112) (六味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.58)
- ⑳○ 溫洗眼目方 (No.112) (三味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.58)
- ㉑○ 治疣目方 (No.112) (二味) 『続名家方選』
「上部病」【眼目】 (p.59)
- ㉒○ 治衝破眼方 (No.113) (一味) 『続名家方選』

「上部病」【眼目】(p.59)

㊸○ 療雀目奇方 (No.113) 『続名家方選』

「上部病」【眼目】(p.59)

㊹○ 除眼翳〔翳〕方 (No.113) (一味) 『続名家方選』

「上部病」【眼目】(p.59)

㊺○ 制疳丸 (No.113) (七味) 『続名家方選』

「上部病」【眼目】(p.59)

㊻○ 治痘後毒入眼中痛者方 (No.113) (二味) 『続名家方選』

「上部病」【眼目】(p.59)

●・【考察13】・●

『名家方選』三部作の「上部病」【眼目】関係の処方群は、すべて記載されている。

◎・Ⅱ. - [26] ・◎

▼ [26] ・「No.113～114」の処方群とその「出典」の
考証、および「出典書目」通覧

- ①○ 清涼甘露飲 (No.113) (十一味) 「正宗」〔外科正宗〕
・『外科正宗』(巻四)【蘭唇第六十三】の項からの記載である。
- ②○ 清熱補血湯 (No.113) (十一味) 「準繩」〔証治準繩〕
- ③○ 甘桔湯 (No.113) (七味) 「医通」〔張氏医通〕
・『張氏医通』(巻十五)【小兒門下方】の項からの記載である。
- ④○ 清陽湯 (No.113) (十味) 「準繩」
- ⑤○ 正宗 黃連瀉心湯 (No.114) (九味) 「正宗」
・『外科正宗』(巻四)【重舌第一百十二】の項からの記載である。
-

◎・Ⅱ. - [27] ・◎

▼ [27] ・「No.114～115」の処方群とその「出典」の
考証、および「出典書目」通覧

- ①○ 甘露飲 (No.114) (十味) 「局方」〔和劑局方〕
・『和劑局方』(巻六)【治積熱】の項からの記載である。
- ②○ 定痛散 (No.114) (十二味) 「回春」〔万病回春〕

「上部病」【牙齒】(p.61)

④○ 治齲齒方 (No.115) (一味) 『続名家方選』

「上部病」【牙齒】(p.61)

⑤○ 治牙齒疼痛不可忍者方 (No.115) 『続名家方選』

「上部病」【牙齒】(p.61)

●・【考察14】・●

『名家方選』「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】(p.4~6)の9処方の記載がない。Ⅱ. - [N] の【考察11】を参照。

さらに、Ⅱ. - [O] の最後の③○九葉方 (No.108) (二味)・『名家方選』「上部病」【口舌牙齒鼻耳眼】(p.7)の次の処方である「治骨槽風方」と「兼用丸葉方」の2処方が欠落している。

『名家方選三編』「上部病」【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】(No.25~29)における「牙齒」関連の処方は、すでにⅡ. - [N] に記載されている。

◎・むすび・◎

以上、『真齋聚方』のNo.68~No.115の処方群の「出典」について考証した。『名家方選』三部作の処方群とその前段の処方群との関係については、必ずしも明解ではないところもあるが、これまでと同様におおまかには関連している処方群としてとらえてよいものと思われる。

『名家方選』三部作の処方群について言えば、これまでは各項目のすべての処方を原文どおりに記載していたが、今回は、【口舌牙齒咽喉鼻耳眼】の項目において、いくつかの欠落している処方が見られた。

これらは、おそらく故意に削除したというよりも、各小項目ごとに分割して記載した際に漏れたものと考えられる。

したがって、原文を忠実に記載するという「真齋の方法」に変化は見られないと言える。

すなわち、稿本『自然真営道』と『真齋謾筆』との内容的同一性についての考察にも変わりはないと言える。

『真齋聚方』の内容は、例えば『観聚方要補』における処方の記述よりも詳細なところが多く、これらは今日においても、なお有用な「処方集」としての価値があるものと言えるであろう。それは、続稿における考証から、ますます明らかとなることが予測されるところである。

[2018年11月25日、PHN (思想・人間・自然)、第35号、PHNの会発行]

[2018年11月25日、和田耕作 (C)、無断転載厳禁]
